

## ひと・まち交流館 京都 10周年記念事業のお知らせ

「ひと・まち交流館 京都」では、当センターを含む4つの団体が活動をしています。今年で開館10周年を迎えるのを機に、様々な記念事業が開催されますので、ぜひご参加ください。

三都連携事業・子どもまちづくりセミナー

### ●「すまい・まちづくり学習フェスタ」 すまい・まちづくり学習に関する教室等の各種イベント

【場所】当センター ワークショップルーム等 【日時】11/9(土)13:00~17:30(予定)

神戸・大阪・京都の三都市で行われている、すまい・まちづくり学習の事例等の展示

【場所】ひと・まち交流館 京都 1階作品展示コーナー 【日時】11/8(金)~11/12(火)

### ●「福祉ボランティア・社協フェスタ」 共につくろうきょうの絆

かえっこバザール・親子で楽しめるコーナー、模擬店、京都ボランティア協会とのコラボ企画、福祉体験コーナー等

【場所】ひと・まち交流館 京都 【日時】10/20(日)10:30~15:00

「未来へつなごう京町家-京町家まちづくりファンド8年間の記録-(終了事業)

【場所】ひと・まち交流館 京都 2階大会議室 【日時】9/19(木)19:00~21:00

## 賛助会員募集中

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費はニュースレターの発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全・再生に向けた取組などの事業に活用させていただきます。

年会費  
個人1口/5,000円 団体1口/50,000円

特典1 ニュースレター「京まち工房」送付(季刊・年4回)

特典2 冊子等の進呈

特典3 当センターホームページへのバナー掲載(団体会員)

入会をご希望の方は、当センターにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

### 会費振込方法

- 銀行振込 当センターより専用振込用紙をお送りします。 ■クレジットカード決済 当センターホームページからお振込みいただけます。(VISA、MasterCard、JCB)
- 三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通 1166668
- 京都中央信用金庫 本店 普通 1177867
- 当センター窓口 現金のみ受付いたします。

## (公財)京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127  
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1  
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階  
TEL:075-354-8701 FAX:075-354-8704  
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

### 開館時間

平日・土 9:00 ~ 21:30  
日・祝 9:00 ~ 17:00

### 休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日にあたるときは翌日)  
年末年始(12月29日~1月4日)

### 交通系統

バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車  
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分  
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



(公財)京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房

64号

平成25年9月20日

編集・発行 (公財)京都市景観・まちづくりセンター

デザイン・印刷 (株)リーフパブリケーションズ

パートナーシップで進めるまちづくり

# 京まち工房 64

(公財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

特集

まちづくり座談会 in 先斗町

京町家まちづくりファンド

京町家再生事例

「京町家専門講座」開講中!

京町家再生セミナー  
京町家を地震から守るために  
ほか

「まちセン」のはたらき  
15年間

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>



## 先斗町ってどんなところですか。

**(金田さん)**「これが先斗町」というのは、なかなか見つけれられていないのが現状です。ただ、先斗町の中でアンケートをしてまとまってきている意見としては、お茶屋さんや飲食店が密に混在して、協調もって発展しているまち、ということがあります。また、舞妓さんや芸妓さんが歩いていて違和感のないまちであるべきだと考えています。今ある先斗町のお茶屋さんや町家のような建物は、道幅の狭さに合った造りだと思っています。看板等が整理されて、その軒先が連なってくると、舞妓さんや芸妓さんが歩く風情にふさわしいまちになると思います。私は飲食店を営む立場で、住んではいませんが、住民さんやお茶屋さんは、先斗町をどのように見ていらっしゃるのでしょうか。

**(楠さん)**お茶屋さんは先斗町を廊だと思っています。お茶屋さんと料理屋さんが歩み寄って、うまいこと共存しないとけないと思っています。

**(神戸さん)**建物や雰囲気など花街だからこそ残ったものがたくさんあります。それを大事にするべきだと考えて、先斗町まちづくり協議会(次頁右下参照)ではまち全体について、取り扱ってこうと考えています。

## 先斗町ならではのものは何かありますか。

**(神戸さん)**<sup>2</sup>敷地割や建物が江戸期のままで残っている可能性があります。先斗町の通りは狭く建替えしづらいため、建物の位置関係がほとんど変わってなくて、建物の骨組自体はとて古いです。それは貴重なことだし、それが先斗町の独特の雰囲気をつくっているように思います。

## 先斗町でのしきたりや昔はこうだった等がありますか。

**(楠さん)**昔は、ご近所さんと何でも相談しあうものでした。今は先斗町町式<sup>3</sup>目で定めていますが、昔はそれがなくても工事するときなどは「こうしたい」とみんなに伝えるのが当たり前でした。例えば「<sup>すだれ</sup>廉か<sup>3</sup>ぼろぼろだったら変えたほうがいいよ、とか、さっき知らない人が入って来たよ、とかご近所の人気が付いたら教えてくれて、良くも悪くもご近所さんの目がありました。

**(神戸さん)**それぞれ勝手知ったる他人の家みたいなのがあって、気がついたら誰かがうちの居間にいったりとか、こちらもお隣の居間でお話をさせていただいたりとか、それぞれ別個のお住まいなのに、変に共用スペースをもっているようなところがあります。

**(金田さん)**ファミリーみたいな雰囲気ですね。

**(楠さん)**昔は先斗町全体がそうでしたが、今は部分的に残っている感じがします。

**(神戸さん)**確かに住んでいる者の間では、「お互い様」というのが残っていますね。

**(神戸さん)**<sup>4</sup>また、女性の屋形主さんが多くて、先斗町というまちも建物も、「預かりもの」という感覚をもっておられるように感じます。大事に守り続けたいとけないと思っておられて、その感覚は女性的なようにも思います。

**(金田さん)**最近ではそういう感覚が無くなってきているように感じます。それで、まち全体を考えないような行動が出てくるのかとも思います。

### 楠 大毅さん

先斗町まちづくり協議会副会長  
先斗町お茶屋営業組合取締役  
お茶屋楠 主人



### 神戸 啓さん

先斗町まちづくり協議会副会長・事務局長  
立誠自治連合会常任理事・立誠交通対策協議会会長  
うさぎのアトリエびよんびよん 京・先斗町 店主

## 『「先斗町」の将来を考える集い』から始められて、この4年間の活動はいかがでしたか。

**(金田さん)**先斗町の諸問題について、『「先斗町」の将来を考える集い』の前にも解決しようと立案されることはありましたが、実行するのは難しく実現しませんでした。今回の活動で初めて、町式目を制定し、看板の改善に取り組むことになりました。看板の問題を自分達が整理することに、最初は抵抗がありました。料理屋さんの看板を引っ込めて見えづらくするのは料理屋さんの営業にマイナスなことじゃないか、古くから営業している料理屋さんの看板の重みを度外視することはどうなのだろう、などという思いもありましたが、みなさんの反応は前向きだったと感じています。

**(神戸さん)**そうですね。

**(金田さん)**今までやってきたまちづくり活動は、看板、ゴミ、自転車の問題等、改善や規制ばかりです。一時期は、今度は何を言ってくるのだろうという目で見られて、プライベートでこのあたりを歩きにくいこともありました。

**(神戸さん)**一年位前はそうでした。

**(楠さん)**本当は、当たり前のことばかりです。あかんことをあかんと言ってくれる人、悪者になってくれる人がやっと出てくれたのだと思います。

## それにやっぱり掃除が大切ですよね。

**(神戸さん)**住んでいる者にとっては、掃除は当たり前のことです。朝からゴシゴシ石畳を掃除していたら、お茶屋さんが掃除されているのを見かけますし、みんな当たり前のこととしてやっています。



## 先斗町まちづくり協議会について

先斗町まちづくり協議会は、『「先斗町」の将来を考える集い』(平成21年11月～平成23年9月)を前身として、平成23年10月に発足しました。住民、お茶屋、飲食店等先斗町に関わる多様な主体が集まって、活動を進められています。これまでに路上喫煙や屋外広告物(看板)、ゴミ出しなどに関する町式目を順次策定し、運用してきました。

**(楠さん)**お茶屋さんは夕方になったらじょうろで水をまいて、それが、お客さんを迎える用意が整ったことの合図になります。同じ位の時間に出てくるのでそのとき少し話をすることもあり、コミュニケーションの場にもなってきました。

**(神戸さん)**毎日本水をまきに出てこられるので、用事があったらすぐ伝えることもできます。大切なことは、通りと建物の間に人が語り合う場所や時間を持っているということだと思います。先斗町という場所は、車が通らなかつたことで、そのようなことが昔から同じようにされている。先斗町というまちのもっとも変わらないところはそこかもしれません。

**(楠さん)**最近、まちづくり協議会の活動が浸透してきて、こちらから行かなくても聞きに来てくれるようになりました。

**(金田さん)**よく話しかけられるようになりましたし、まちの人とのコミュニケーションが増えました。



### 金田 祐一さん

先斗町まちづくり協議会副会長  
京都鴨川納涼床協働組合 会計理事  
先斗町いづもや 取締役社長

## これからやろうと考えておられることはありますか。

**(神戸さん)**先斗町で取り組んでいることは、長いスパンで考えるものも多いので、次の世代に今のまちづくりの状況を知っておいてもらいたいと考えています。

**(金田さん)**やらないといけなことが大きすぎて、2、3年スパンではなく10年スパンで考えないとけません。

**(楠さん)**この協議会があることで、先斗町は悪い方向には進まないと思います。色々な課題を解決してって、これからみんなが共有できる「これが先斗町」というものが見えてくるのではないのでしょうか。

\*1 廊 ここでは、お茶屋さんの集まる地域のこと

\*2 敷地割 建物が建つ敷地の区画

\*3 先斗町町式目 先斗町まちづくり協議会で定めた地域の決まりごと。次頁参照。

\*4 屋形主 ここでは、建物の持ち主のこと。

文＝阿部 麻衣子、中島 宏典、森川 宏剛

### 先斗町とは

北は三条通の一本南から、南は四条通までの南北約500m弱、東は鴨川、西木屋町通に出るまでの区域。先斗町通とこれに接する路地に、茶屋や料理屋が軒を連ねる、花街としてその歴史を積み重ねてきた地域。

特集 まちづくり座談会 in 先斗町  
先斗町におけるまちづくりの取組



花街先斗町の風情や昔からの先斗町の景観を守るために、先斗町町内の決まりごとが、「先斗町町式目」として制定されました。平成21年8月に第1条、平成23年10月に第2条、平成24年5月に第3条が制定され、また、その後も先斗町まちづくり協議会の活動にあわせて、条項を追加・改定する方式としています。

屋外広告物の改善状況

通りに突き出していた屋外広告物が改善され、すっきりとした景観になりました。



エアコン室外機目隠しの設置状況

エアコンの室外機に格子状の囲いをつける取組を行いました。



京町家まちづくりファンド平成23年度改修助成事業(京まち工房 58号参照)

町式目には、屋外広告物は先斗町のお茶屋建築が生み出す町並みに馴染むようにすることなどが定められました。新規に出店する際だけでなく、既存の店にも自主改善をお願いしてきました。その成果が認められ、平成25年3月に京都景観賞屋外広告物部門特別表彰を受けられました。

- ☑ 京都市から、地域景観づくり協議会の認定を受けました。(「京まち工房60号」参照)
- ☑ 「歴史的風致形成建造物」に小野邸、長谷川邸、神戸邸、お茶屋丹米さん、宮川さんの5件が選定されました。
- ☑ 「景観重要建造物」に、小野邸と長谷川邸の2件が選定されました。



文=阿部 麻衣子、中島 宏典、森川 宏樹

京町家まちづくりファンド



京町家まちづくりファンドは、京町家の保全・再生を推進するための基金です。平成17年に篤志家の方からのご寄附と京都市、国からの支援をもとに設立し、引き続き、京町家を愛する皆さまのご寄附をいただきながら運営しています。

改修助成事業は平成18年度に始まり、これまでに68件の京町家の保全・再生を支援しました。皆さまのご寄附によって、一つ一つの積み重ねが、大きな取組となっていることを実感しております。ご支援をいただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

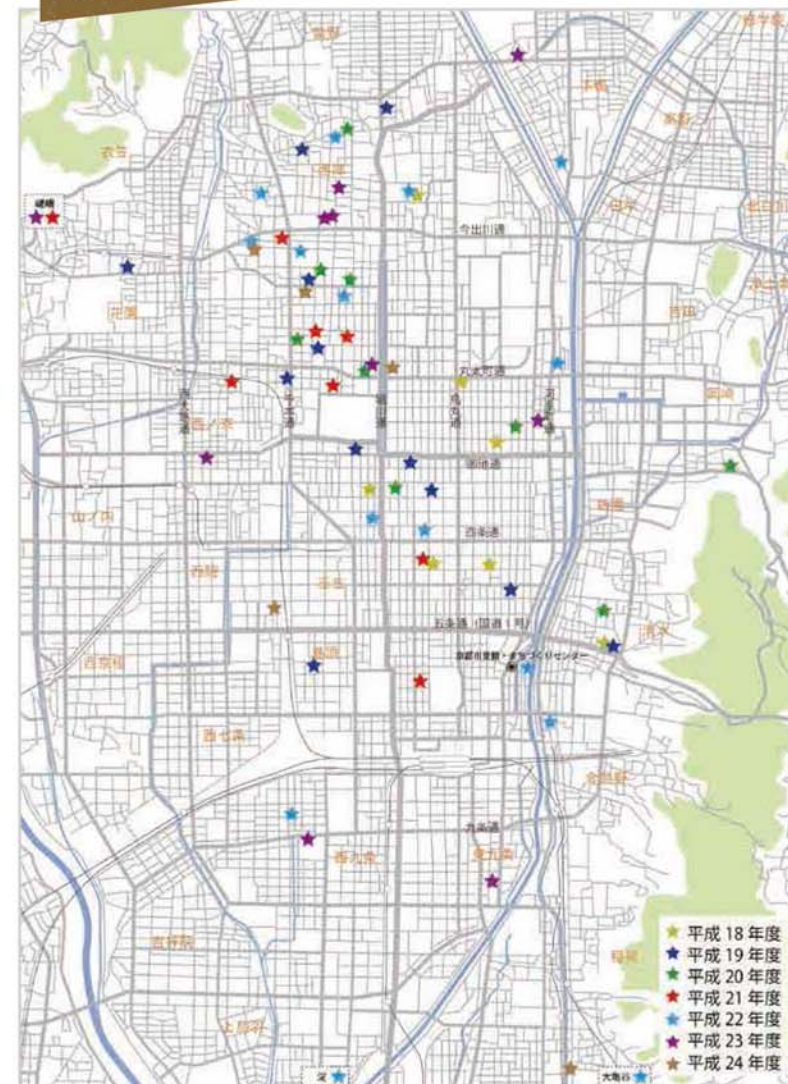
京町家まちづくりファンド記録集の完成

この度、京町家まちづくりファンドの保全・再生の取組を「京町家まちづくりファンド記録集」としてまとめました。京町家を改修された方々の思いが詰まった内容となっています。当センター受付に閲覧用の記録集を設置するとともに、京町家まちづくりファンド専用ホームページにすべての改修事例を紹介しています。ぜひご覧ください！

<http://kyoto-machisen.jp/fund/index.html>



京町家まちづくりファンドが支援した京町家MAP



文=高橋 彰

まちづくり相談のお知らせ

当センターでは、地域住民のみなさんが主体的に進めるまちづくり活動を応援しています。例えば、「いままで育ててきた町並みを子どもたちに引き継いでいきたい」、「いつまでも活気があり、住み続けたいと思えるまちであるために、できることを考えていきたい」という思いを実現するためのお手伝いをします。相談内容や地域の状況に応じて、当センタースタッフや専門家によるまちづくり活動の進め方等に関する助言や活動費助成(一部)などの支援を行なうこともあります。まずは、当センターの窓口にお気軽にご相談ください。



京町家再生事例  
平成24年度 京町家まちづくりファンド 改修助成事業

山内邸「京町家と共に」



今回は、生まれ育った京町家のミセノマを改修し、長年の夢だった喫茶店「sans-souci」(サン・スーシイ)をオープンされた山内邸のご紹介です。「sans-souci」はフランス語で「お気軽に」「気軽に」といった意味だそうです。名前にも込めた思いと、改修の経緯をお聞きました。

文=高橋 彰

京町家改修のきっかけ

大袈裟かもしれませんが、3~4年前、自分の手で明るい未来を切り開けるような仕事がしたいと決意し、自宅で喫茶店ができればいいなと思うようになりました。趣味がお菓子作りだったこともあり、カフェでアルバイトをしながら少しずつ構想を固めていきました。

概深かったです。自分で手をかけた分だけ思い入れが強くなり、愛情も湧くので長く大事に使おうという気持ちになります。中村さんにはとても感謝していますし、「家づくり塾」に参加して本当によかったです。

お気に入りの場所は？



喫茶店の入り口がお気に入りです。以前、この部分は軽自動車一台がやっと入るくらいのガレージとして使っていました。今回の改修で、素敵なアプローチになったと思います。いざ改修する段となり、ガレージを覆っていた新建材をはがし、昔の土壁が出てきた時は、とても感動的でした。そのことで、一気に京町家らしい空間になりました。物心がついたときには、新建材で覆られていたので、今回の改修によってはじめて昔の姿を垣間見ることができました。

喫茶店をオープンして

お客さんは地域の人が多く、地域に密着した喫茶店になっていると思います。お客さんに「京町家は落ち着くね」「漆喰の壁がいい感じだね」とほめていただくことがあります。皆さん京町家のことをよくご存知で驚かされます。京町家マニアが集まっているのかもしれない(笑)。喫茶店になっていることで、いろいろな人に京町家に触れていただけるし、自分もお客さんとお話するなかで、様々なことを勉強させて頂いています。「sans-souci」に込めた「誰でも気軽に入れるお店」という思いと、「気軽に過ごせたらいいな」という思いが、この京町家と共に少しずつ叶っている気がします。



喫茶店のカウンターに立つ山内さん

出会いに支えられた改修

京町家を改修する前には今回の改修を担当していただいた設計士の中村さんが塾長を務める「家づくり塾」に参加させていただき、約一年半お世話になりました。その経験を活かし、喫茶店の壁の漆喰を塗る際は左官屋さんのお手伝いもさせていただきました。漆喰塗りも木部の塗装も昔から使われている材料と工法なので、昔の人も同じ作業をしていたと思うと感



家づくり塾の様子

中村塾長のコメント

今年で9年目になる「家づくり塾」は、自分で家を直したいと願う素人さんのために開いたもので、実習を中心に家を修理する方法を学ぶところです。これまでに延べ500人程が山内さんのように経験を積んで改修をしています。山内さんには「家づくり塾」の経験を活かして、今後も末永く京町家を大事に使ってもらえたらと思います。

「京町家専門講座」開講中!

建築・不動産等に携わっておられる専門家の方々を対象に第1回「京町家専門講座」を開催しました。今年度から毎月1回程度、京町家に関する技術、流通、制度等、様々な内容で企画しています。この講座は当センターが市民の皆さまと出会うための入口である、「京町家なんでも相談」を担っている京町家専門相談員向けの研修を拡充して実施しています。

2013  
7/30  
Tue

第1回 京町家に学ぶ -暮らしの文化と空間づくり-

講師/高田光雄氏(京都大学大学院教授)  
会場/京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム1・2



高田 光雄氏

京町家の暮らしに受け継がれる生活文化や循環型木造建築の可能性について、現代的価値観から再評価し、現代の空間づくりや環境と共生する住まいの可能性を考えました。京町家に学ぶ「ひと-いえ」「いえ-まち」「いえ-にわ」の関係性や、最大限の風通し、建具の活用、住み継ぎを可能にする間取りなど、設計に取り入れたい特徴的な手法についても説明されました。



文=西井 明里

その他開催講座の講師

- 8/29(木) 第2回 宗田好史氏(京都府立大学教授)
- 9/26(木) 第3回 松井薫氏(京町家情報センター代表)



京町家なんでも相談のお知らせ

「改修したいんだけど、どのように進めたらいいのだろうか」「愛着のある使っていない町家の活用を考えたいんだけど…」など、京町家の維持・継承に伴う様々な悩みや不安の解消に向けて、「京町家なんでも相談」を行っています。専門的な内容については、大工・建築士・不動産事業者などの専門家と連携して相談を行っています。いずれの相談も無料ですので、京町家に関する悩みや不安をお持ちの方は、ぜひ当センター窓口にお気軽にご相談ください。



## まちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

## 京町家再生セミナー

京町家に関する基本をさまざまな視点から学びます。

### 「祇園祭」と祭りを支える鉾町

今回のセミナーは船鉾町にある長江家住宅 袋屋を会場に、祇園祭における町会所と町家のお飾り場に焦点を当ててお話をいただきました。

まず、江戸時代後期の屏風絵「祇園祭礼図」(大阪くらしの今昔館蔵)から、家の二階まで幔幕を張り屏風を立てるなど豪華に飾りが施されていた様子、上客を二階へ招き巡行を見せる様子(当時は二階祭とも呼ばれていた)、山鉾巡行時も屏風を飾り、道行く人をお茶でもてなすなど、町の人に開かれた屏風祭が行われていた様子について解説いただきました。

また、表通りに面した町会所でも、鉾と曳山を出す町内と、昇山を出す町内とで、ご神体の配置などに違いがあったり、さらに一部の昇山の町内には路地奥の会所もあり、路地空間を生かした会所飾りが行われていることなど、先生ご自身が行った調査を基に、祇園祭を愉しむポイントをお話をいただきました。



京都市指定有形文化財  
長江家住宅 袋屋  
<http://nagaeke.main.jp/>  
見学、催事利用については  
電話かメールで事前予約下さい。  
お問合せ:075-351-1029  
[nagaehouse.kyoto@gmail.com](mailto:nagaehouse.kyoto@gmail.com)



講師:谷直樹氏  
(大阪市立大学名誉教授・  
大阪くらしの今昔館館長)  
会場:長江家住宅 袋屋

文=牧野 杏里

### 今後の開催予定

|              |  |                                     |
|--------------|--|-------------------------------------|
| 京のまちづくり史セミナー | 10/9 (水) 19:00~21:00 「調停する都市」                        | }の2日間「京都の朝と夜:生活の場としての先斗町」(講義とまちあるき) |
|              | 11/29(金) 19:00~21:00                                 |                                     |
|              | 11/30(土) 10:00~11:00                                 |                                     |
| まちづくり実践塾     | 10/25(金) 19:00~21:00 「海外の歴史的環境保全から京都をみる」             |                                     |
|              | 11/17(日) 10:00~16:00 「緑から考える京都の景観」                   |                                     |
|              | 12/5 (木) 19:00~21:00 「京都の夜景を考える」                     |                                     |
| 京町家再生セミナー    | 10/31(木) 19:00~21:00 「京町家まちづくりを解く」                   |                                     |
|              | 11/21(木) 19:00~21:00 「京町家を、京都の景観を、次の世代に引き継ぐための基礎知識①」 |                                     |
|              | 12/8 (日) 13:30~16:30 「京都の歴史的まちなみを地震・火災から護り抜くために」     |                                     |
|              | 12/11(水) 19:00~21:00 「京町家の維持管理・修繕のポイント」              |                                     |

#### (申し込み方法)

①セミナー名 ②開催日 ③氏名(ふりがな) ④電話番号 以上を明記の上、電話・FAX・E-mailにて京都市景観・まちづくりセンターまでお申し込みください。

2013  
7/10  
wed

2013  
6/25  
tue

### 京町家を地震から守るために

京都盆地は多くの活断層に囲まれており、内陸直下で起きる地震に対して備える必要があります。セミナーでは対策として、定期的な点検・維持管理を行うとともに、ボード等で壁や木材を覆ってしまうような改修を避け、建物の劣化(腐食、白蟻等)を見逃さないようにすること、また、京町家は主に土壁の強度と柱・梁等の軸組みや貫が変形することにより地震に耐えるという特性があり、京町家に適した補強と補修を行う必要があることを学びました。そして、これらの対策を適切に判断できる、信頼できる大工、工務店等に相談することが大切であるというお話がありました。



講師:林 康裕氏  
(京都大学大学院教授)  
協力:京安心すまいセンター

### 京町家の夏を科学する ~夏を乗り切る知恵と工夫~

今回は、京都市リサーチパーク町家スタジオを会場に、体験型のセミナーを開催しました。

人は、視覚・聴覚・嗅覚などの五感を含めて総合的に心地よさや快適さを感じています。セミナーでは、夕涼み、打ち水、夏建具、風鈴といった昔ながらの暮らしの習慣を実践することで、実際に涼しく感じられることが、調査・実験データにより示されました。特に京町家は、季節感を五感で感じられるしつらえがあるだけでなく、住まい手の繊細な感性を育む暮らしが営まれているというお話がありました。

セミナー後半では、参加者が温度測定器を用いて会場の町家内の温熱環境の測定を行うとともに、道路と庭で実際に打ち水を行い、その効果を体験しました。



打ち水を体験



トオリニワの温熱環境を測定

講師:松原 斎樹氏  
(京都府立大学院教授)  
会場:京都市リサーチパーク町家スタジオ

2013  
7/27  
sat

文=辻 真紀子

京都市リサーチパーク町家スタジオ <http://www.krp.co.jp/machiya/>  
昭和初期に建築された京町家を活用した起業支援と地域交流のための施設です。

町家スタジオ  
館長  
田中 裕也氏



町家を利用いただける皆さまのために、日ごろから暑さ対策をしていますが、その効果を科学的に知ることができて町家への理解を深めることができました。

その他開催セミナー 7/15(月・祝) 大工さんに聞く、町家のキホン 講師:狩野 文博氏、田原 利晃氏、堀 榮二氏(京都府建築工業協同組合)

# “まちセン”のはたらき15年間

三村 浩史 理事長(現・第4代)

## はじめに

“まちセン”(公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターの愛称)は今年10月1日をもって16年目を迎えます。市民・企業・行政のパートナーシップ=まちづくりの協働をいっそう発展させようという目的はどれほど達成出来たでしょうか。ここで中間報告すべきですが、1990年代盛り上がった市民パワーと次々に寄せられる課題への対応で精一杯でした。若いスタッフが多い当センターは、さまざまなシンポジウムやセミナーなどで諸団体と共催・後援し、まちづくり協議会等に専門家を派遣・業務サポートし、国や市、民間の支援を受けて実に数多くのプロジェクトを体験してきました。これらの実績はセンターの季刊誌「京まち工房」(第1~63号)に記載していますが、もっとホームページを活用して報告するなどの工夫が必要です。

## センターおよび 景観整備機構としての事業展開

(1)必要な知識情報の提供:景観や町並みとして京を眺め直す政策は、市民の生活空間への関心を高めました。景観・まちづくり大学のセミナー、ガイド付きツアーである京町家まちづくり散歩、図書・展示コーナー、各種資料の提供、まちづくり協議会等への専門家派遣・業務サポートなどを行いました。

(2)京町家の保全・再生プランの実践:歴史的な町並み特徴を京町家への評価が高まり、保全と活用の取組に弾みがつきました。有力な市民団体や専門家集団との協働により、京町家とその所有者についての調査をはじめ、相談事業、セミナーの開催、京町家の文化的価値を個別に評価する京町家カルテの発行などを進めてきました。民間篤志家の寄附に端を発した「京町家まちづくりファンド」の設立、更にワールド・モニュメント財団(WMF)における「京町家群」のワールド・モニュメント・ウォッチ選定と再生事業の助成金の受入れなどをサポートしました。

(3)まちづくりの教育・研修の連携:大学院生の実習、学生提案コンペ、留学生や内外視察団の受入れ、京町

家アーティスト・イン・レジデンスの事業化。広域発信では東京、関西三都、ニューヨークでのシンポジウム、世界歴史都市会議での発表などに参画しました。

## 景観・まちづくりの成熟に向けて

歴史的市街地で建物の高さの引き下げなどの効果が出ています。また、昨春から、住民が主体的に自らの住まう地域の景観まちづくりを進める仕組みとして地域景観づくり協議会の制度ができ、まちセンも地域に密着した支援を進めてきましたが、その更なる拡充が望まれています。

一方、世代交代での相続問題による空き家の増加は気がかりです。現存ストックを診断・改修して、新しい住み手に継ぐという居住資産の運用に関する作業をもっと進める必要があります。より良質の環境は京都の資産の付加価値に反映します。空洞化はほしくないでしょう。むしろ全国や世界の投資ファンドのターゲットです。そこで、新しい住民やテナント、また京都の都市開発に投資する人々に対してどのように景観・まちづくりの一員として参加を求めるのか、ここで京のマナーを示すべきです。この地にふさわしい土地・建物ストックの評価や流通情報システム、防災や近隣環境を含めた改修技術、信託や資金、税制などの制度を目に見るように立ち上げるべき時期に来ているといえます。

## 結び

「京に“まちセン”があってよかった！」  
これからも市民、企業、行政、さらに全国・世界の京都ファンに鍛えられつつ、評価されるように努力します。



6月・東京にて

# 私と京都

大阪商業大学経済学部教授  
西嶋 淳



## 「京都のくらしと私にとっての景観」

いまの北区のすまいに移って約50年。ありがたいことに、比叡山や賀茂川など周りの自然のながめはあまり変わっていません。これも京都ならではのこともかも。そういえば、小学校から大学まで節目に口ずさんでいた校歌にはどれも「比叡」や「かも(川)」のながめがありました。賀茂川は、近所の子供たちにとっては怖い思いもするけれど大切な遊び場。また、以前は比叡山・四明ヶ嶽の近くに人工スキー場があって、私が小学校高学年のころはスキー教室の会場でした。常設のスキー学校も開いていて、「お客さん」が転じて荒天も何の其の、講師として足繁く通うことに。旧市電道の北側にすまう私にとっては、いつの間にか、比叡山のみえや賀茂川のように色々な気配をさぐるのが当たり前になり、その存在はくらしにとけこんでいます。

とはいえ、こんなふうを意識するようになったのは、間違いなく2度経験した東京単身赴任生活のおかげ。東京のまちは、起伏のある豊かな地形で緑も多いのですが、なにせ山が遠く水辺にもあまり変化がない。東京の方々には叱られるかもしれませんが、くらしのなかで自然が身近に感じられず、私にとってやすらげる景観ではありませんでした。

ところで、景観については、ひとをとりまく環境のながめ、それも単なるながめではなく、環境に対するひとの評価と深いかかわりがあるという考え方があります。環境には、自然的なものだけでなく社会的なもの

の含まれますから、たとえば、あるまちの景観は地域コミュニティのような地域社会のありようのながめと解釈することも可能です。

京都では、白河法皇の三不如意にあげられた鴨(賀茂)川も安心・安全と美観を兼ね備えるように整備が進んでいます。また、まちなかは、歴史的にも防火に対する意識が高く、それは景観にもあらわれているように思います。では、近頃、目立つようになった突発的豪雨や地震に対する備えはどうでしょうか。

残念ながら、山河襟帯の京都といえども、自然災害をすべて未然に防ぐことは困難です。しかし、自然の怖さを意識しながら、くらしと自然のかかわりを深めることで災害を減らすことはできるように思います。幸い、京都の方々には随所に豊かな自然と地恵があり、お手本は豊富です。緊張感を保ちながらも、自然を生かす努力を怠らない地域社会のすがたが、京都の景観の本質に深くかかわっているのではないかと考える今日このごろです。

\*三不如意  
院政により絶大な権力を誇っていた白河法皇が、頻りに氾濫する鴨川、すごろくの賽、山法師の3つだけは意のままにならないと語った逸話



## スタッフのつばき E.S

郷里・新潟を離れ、早〇〇年。京都での生活のほうが長くなってしまいましたが、ここ数年「郷土愛」がかなり強くなり、今年の夏は、お盆帰省のみならず、週末の休日等を利用し「1:アルビレックス新潟」を応援するため、北陸道を片道7時間、愛車を走らせホームゲームに足しげく通っております。帰省時の“おひとり様”車内BGMは、もちろん!!【アルビ応援歌】勝利を信じ、今シーズンはあと何回ホームへ駆けつけられることができるやら…。

